

紹介する症例は臨床症例の一部を紹介したものであり、すべての症例が同様な結果を示すわけではありません。

禁忌、効能・効果、効能・効果に関連する使用上の注意、用法・用量、用法・用量に関連する使用上の注意、使用上の注意についてはDI頁をご参照ください。



Nさんのプロフィール

女性 60歳代

■ 肺動脈性肺高血圧症の罹患期間：3年

■ 職 業：自営業

■ 家族構成：夫と二人暮らし

■ 併存疾患：糖尿病

■ 肺動脈性肺高血圧症の治療歴：

X-3年：酸素療法と経口薬3剤〔ホスホジエステラーゼ5 (PDE-5) 阻害薬、
エンドセリン受容体拮抗薬、プロスタサイクリン (PGI₂)
誘導体制剤〕で治療開始

X-1年：PGI₂誘導体制剤をベンティビス®に切り替え

東京女子医科大学病院 循環器内科 芹澤直紀 先生

FOCUS

1

Nさんへのベンティビス®導入の経緯

3年前にNさんが紹介されてきた時は、NYHA心機能分類がⅣ度に近く、肺高血圧症として最重症の状態でした。Nさんには「24時間の持続静注治療が必要になるかもしれない」とお伝えしながら、酸素療法と3系統の経口薬による治療を開始しました。その治療は奏効しましたが、最重症症例ということで右心カテーテル検査を含めて頻回に評価を行っていました。経口薬による治療でNYHA心機

能分類がⅡ度程度になっていましたが、昨年、吸入のPGI₂誘導体制剤であるベンティビス®が登場したため、さらなる血行動態、運動耐容能の改善を目指して、経口のPGI₂誘導体制剤からの切り替えを行いました。それまでの治療でNさんがまじめに治療に取り組む方だとわかっていましたので、頻回の吸入が必要となることは問題にはならないだろうと考えました。

FOCUS

2

ベンティビス®導入の実際

当院では、ベンティビス®の吸入指導については病棟薬剤師が中心的役割を果たしてくれています。第1回目の吸入時には私もベッドサイドでレクチャーをします。それ以降は病棟薬剤師が吸入時に毎回確認を行います。Nさんは入院期間中におおよそ20回の吸入を病棟薬剤師と一緒に行いました。これまで当院では3例にベンティビス®を導入していますが、病棟薬剤師も患者さんからのフィードバックをいただきながらノウハウが蓄積してきているようです。

治療開始時には、最初にベンティビス®の効果を目で見てもらおうようにしています。カテーテルを入れた状態でベンティビス®を吸入してもらい、吸入前、吸入後5分、10分、15分、30分、45分とモニターで肺動

脈圧の数値を見ていきます。自分の目で数値がよくなっていくのを確認することで患者さんはベンティビス®の効果を実感することができます。また、効果のピークが吸入後30分、45分あたりにあることを見ていただきながら、「効果の切れ目を少なくするためにも、1日9回が望ましいですよ」とお伝えしています。このようなデモンストレーションは、コンプライアンスの維持に役立っていると思います。また、治療を続けるなかで、心臓のレントゲン画像と一緒に確認することもあります。検査所見の伝え方として、視覚に訴えかけることは効果的であり、「大きかった心臓がこれだけ小さくなった」と患者さんの印象にも残るようです。

FOCUS

3

Nさんとベンティビス®

経口薬で病態が改善したうえで、さらにもう一押し治療を強化したい場合にベンティビス®を処方しています。Nさんとベンティビス®との出会いもその一押しによるものでした。

ベンティビス®による治療をはじめて、Nさんの病態はさらによくなり、自覚症状も改善しています。肺高血圧症の患者さんは普段からできるだけ無理をしないように、いわばセーブしながら生活をしているため、診察室で自覚症状を尋ねても、「大丈夫です」と答えるケースがほとんどです。

それが、Nさんはある時「以前はちょっと歩いて、はーはー、はーはーと息切れをしてしまいましたが、階段もちゃんと上れるようになってきています」と具体的に話してくれました。その時の顔はとてもうれしそうでした。

そしてNさんは今も1日9回のベンティビス®の吸入を続けます。このように治療に対するモチベーションが維持できているのは、やはり「ベンティビス®の効果を実感できている」というところが大きいのだと思います。

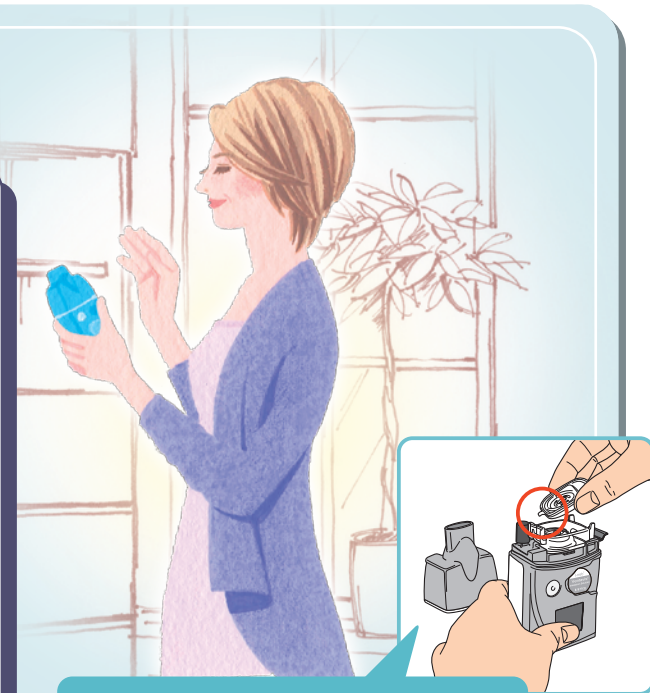
患者さんの声

CASE：東京都Nさん

ベンティビス®をはじめた頃

4年ほど前から顔や足がむくむようになり、そのうち速く歩けなくなりました。坂道や階段を上るのもつらくなり、糖尿病でお世話になっている先生に相談したところ、東京女子医科大学病院に紹介されました。酸素吸入と飲み薬での治療をはじめ、1年前に先生から勧められてベンティビス®もはじめました。

ベンティビス®の使い方については、検査入院の時に病院で指導を受け、入院中に練習しながら使いはじめました。しかし、いざ自宅に持ち帰って使ってみると、なぜか吸入中に薬が漏れてしまい、はじめの数日は上手く使うことができませんでした。そこで、主人にマニュアルを見てもらいながら、一緒に設定を行ったところ、薬液槽の蓋が固定されていなかったことがわかりました。最初は、吸入するための設定に15～20分かかってしまっていたのですが、ベンティビス®を1日9回吸入しているうちに、慣れてきて、以前よりも速やかに吸入準備ができるようになりました。



薬液漏れは、薬液槽の蓋の突起部をしっかりと奥まではめ込んでいなかったのが原因でした。「カチッ」と音がするまで、しっかりと押さえるのが、ポイントでした。

ベンティビス®のある暮らし

夕方から夜に仕事がある自営業をやっていて、私は主に日中の電話対応などの事務をやっています。自営業なこともあり、2時間ごとの吸入は特に問題なくできています。ベンティビス®の吸入については、1日9回もあると、最初は面倒くさいと感じることもありましたが、「自分の身体だから、やらなきゃ自分がまた元に戻っちゃう」と思ってがんばっています。

用事があって少し出かけた時には帰ってすぐに吸入して、その後また2時間ごとに吸入します。毎月の通院では吸入の時間がきたらどこでも空いている場所で吸入し、お手洗いでさっと洗います。

また、ベンティビス®の使い方も私なりに研究しています。一度、寝転びながら吸入できないかとやってみましたが上手くいきませんでした。おかしい持ち方で吸入すると機械はびーびー、ぴーぴー鳴くのです。横着をしちゃいけないということを教えてくれます。日常生活では、基本的には無理をしないように気をつけていますが、年に4回ほど主人と車で旅行に行きます。酸素ボンベと一緒にベンティビス®も持参して2時間ごとに吸入しています。風邪などで体調が悪い日は一日吸入できないこともありますが、そういったときはきちんと先生に伝えるようにしています。

ベンティビス®は月に1回、薬局の薬剤師の先生が自宅まで届けてくれます。ベンティビス®の吸入は痛いものではないですし、自分の身体のためなので、これからも毎日続けていきたいと思っています。



時 間	
6：00	起床
7：00	ベンティビス®
8：00	事務所へ・朝食
9：00	ベンティビス®
10：00	
11：00	ベンティビス®
12：00	昼食
13：00	ベンティビス®
14：00	
15：00	ベンティビス®
16：00	
17：00	ベンティビス®
18：00	夕食
19：00	ベンティビス®
20：00	
21：00	ベンティビス®
22：00	自宅へ
23：00	ベンティビス®
24：00	就寝

土日も仕事なので毎日同じパターンです。自宅と歩いてすぐの仕事場にそれぞれ機械とお薬、洗浄用の鍋が置いてあります。